

1 培土作業の留意点

- ・培土は、晴天を最大限に活用し、確実に2回実施する。
- ・培土でできた溝は、額縁排水溝や掘り下げた排水口と連結する。

2 畦間かん水

- ・開花期（7月中下旬）頃から9月上旬頃まで（＝莢の稔実や子実の肥大のため最も水分を必要とする時期）は、晴天が3日以上続くと見込まれる場合、積極的に畦間かん水を行う。
- ・かん水は短時間に行い、圃場全体に水が行き渡ったら、速やかに排水する。
- ・暗渠排水のある圃場は、暗渠を閉めて乾燥ストレスを軽減する。

畦間かん水の効果

① 着莢数の確保

- ・落花や落莢の防止 ⇒ 青立ちの発生防止

② 百粒重の増加

- ・根粒の活性維持

③ 品質の向上

- ・しわ粒や莢ずれ粒の発生防止



莢ずれ粒



3 病虫害防除

- ・病虫害の発生状況や生育ステージに合わせて適期に実施する **裏面参照**。
- ・葉の裏にも薬剤がかかるように、丁寧に散布する。
- ・散布は、風の少ない朝夕に行い、周辺作物に飛散しないように注意する。
- ・ウコンノメイガによる被害が見られたら、速やかに防除する。

シュウレイは葉焼病の
防除を必ず実施する



葉焼病(シュウレイ)

葉巻が6個／株以上見ら
れたら、すぐに防除する



ウコンノメイガによる葉巻

○病虫害防除の目安

《基本防除》

品種	散布時期	液剤体系 (ハイクリブーム等)			空散 (ヘリ、ドローン)		
		対象病虫害	薬剤名 希釈倍率	10a あたり 散布量	対象病虫害	薬剤名 希釈倍率	10a あたり 散布量
シュウレイ	7月下旬 まで	葉焼病	Zボルドー 500 倍	150L	—	—	—
エンレイ シュウレイ	〔1回目〕 莢が伸び きた頃 (8月上旬)	カメムシ類 アブラムシ類	ダントツ フロアブル 2,500 倍	150L	カメムシ類 アブラムシ類	ダントツ フロアブル 24 倍	0.8L
		紫斑病	プランダム乳剤25 4,000 倍		紫斑病	プランダム乳剤25 16~24 倍	
	〔2回目〕 豆が莢 いっぱい になった頃 (8月下旬)	カメムシ類	トレボン乳剤 1,000 倍	150L	紫斑病	アミスタートレボン SE	0.8L
		紫斑病	アミスター20 フロアブル 2,000 倍		カメムシ類 ハスモンヨトウ	8 倍	

《随時防除》

対象病虫害	薬剤名	希釈倍率	10a あたり散布量
茎疫病	フェスティバルC 水和剤 (収穫7日前まで)	600 倍	150L
葉焼病 (エンレイ)	Zボルドー	500 倍	150L
ウコンノメイガ、マメシクイガ ハスモンヨトウ 等	プレバノンフロアブル5 (収穫7日前まで)	4,000 倍	150L
ウコンノメイガ、マメシクイガ フタスジヒメハムシ カメムシ類、アブラムシ類 等	ダントツH 粉剤DL (収穫7日前まで)	—	3 ~ 4 kg (ウコンノメイガ マメシクイガ の場合は 4 kg)
マメシクイガ、ハスモンヨトウ 等	トレボン粉剤DL (収穫14日前まで)	—	4 kg
	トレボン乳剤 (収穫14日前まで)	1,000 倍	150L

【お問い合わせ先】

JAいみず野営農指導課 TEL52-6805 高岡農林振興センター農業普及課射水班 TEL26-8478

JA いみず野ホームページ <http://www.ja-imizuno.or.jp/>